

第16回白衣式が開催されました

千葉大学医学部では令和7年11月28日（金）、あのはな記念講堂にて第16回白衣式が開催されました。

この白衣式は、医学生が入学して4年間にわたり積み重ねてきた学びを経て、これから病院での臨床実習で臨床実習生（医学）として患者さんと直に接するにあたり、医療者の一員としての自覚を新たにするとともに、本格的なトレーニング（臨床実習）を開始することを祝福するための大切な式典です。今回は共用試験（CBT、臨床実習前OSCE）に合格した学生総勢111名が参加しました。

式典では、本橋新一郎医学部長代理、大鳥精司医学部附属病院長、伊藤彰一学部学務委員長、吉原俊雄あのはな同窓会長、中嶋新医学部後援会副会長、青柳信子千葉白菊会会長から学生へのメッセージが送られた後、白衣授与が行われました。一人ずつ氏名を呼ばれ、ステージ上で自らの名前と千葉大学医学部のロゴマークが刺繍された白衣を着せ掛けられた学生らは、白衣の重みを感じながら気持ち新たに、今までお世話になった方々に一礼しました。

続いて4年生を代表するプロジェクトリーダーの神尾真美さん、迫井優里子さん、林正之さん、横山青袖さんから、自分たちが目指す医師像と決意、感謝を盛り込んだ『誓いの言葉』が読み上げられました。これまで学生たちを育ててくれた方々を代表し、千葉白菊会の青柳会長、医学部教員代表として本橋医学部長代理に花束贈呈が行われ、白衣式は幕を閉じました。

会場の外では、医学部生と保護者の方々が集まり、記念撮影を行っていました。学生からは「いよいよ臨床実習が始まることを実感し、身の引き締まる思いです。これまでの座学や実習を通して学んだことを、臨床現場に還元できるように一層努力したいです」という声や、「これまで支えてきてくれた家族に晴れ姿を見せられて誇らしい気持ちです。これまでの感謝と、臨床実習に臨む意気込みを伝えました」といったエピソードが語られました。

学生たちは、コロナ禍で制約を受けながらの学生生活となりましたが、医師というひとつの目標に向かって一人一人が努力を積み重ね、この場に立つことができました。その裏には、教職員やご家族、献体により自らを導いてくれた方々やその理念にご賛同いただいたご遺族の方々など、多くの方々のご協力の上に成り立っています。

今回、白衣を受け取った111名の学生にとって、実りのある臨床実習となるよう、医学部教職員一同、応援していきたいと思っております。



学生へのメッセージを述べる
本橋医学部長代理



白衣授与の様子



誓いの言葉を述べる学生